

サーベラス社が提案した西武ホールディングス株式公開買い付けに伴う「西武鉄道5路線廃止」に反対し継続運行を求める意見表明

先般、西武ホールディングスに対し、同社の筆頭株主である投資会社サーベラスが株式公開買い付けを実施することに伴い、西武鉄道の不採算路線として5路線の廃止などを求めていることが大きく報道されました。

廃止提案の対象とされた5路線中、多摩湖線は東大和市内で営業運行されているとともに、国分寺線並びに山口線についても多摩湖線と同様、多くの市民が通勤通学など日常生活で毎日利用しており、市民生活に欠くことのできない重要な公共交通機関です。また当市には長年西武鉄道とともに発展し都市形成をしてきた歴史があります。さらに現在、東村山市においては、東京都の都市計画事業として東村山駅周辺の「連続立体交差事業」が開始されている状況にあり、当市にとっても将来の都市基盤整備に大きな影響を与える重要な時期を迎えています。

サーベラス社は、この提案の検討を求めているとはしていませんが、鉄道のような公共性、公益性の高い事業に対し、株主という優越的な立場から経営合理化優先でこういった提案がなされること自体、極めて憂慮すべき問題であります。

鉄道事業は、輸送の安全を確保するとともに、鉄道の利用者の利益を保護し、鉄道の健全な発展を図り公共の福祉を増進することを目的とすることが鉄道事業法でも明記されております。

利益優先の合理化策によって、市民生活に必要不可欠な鉄道事業がその存廃を議論されることは、沿線住民はもとより、街の発展に期待する多くの東大和市民を不安に陥れるものであります。

東大和市議会は、沿線4市で構成する「西武鉄道国分寺線・多摩湖線沿線連絡協議会」と協力して、今回のサーベラス社の提案に対し断じて容認できないことを表明するとともに、関係者に対して現行事業路線の将来にわたる運行継続の確約を強く求めます。

平成25年4月22日

東京都東大和市議会
議長 尾崎 信夫